

活の諸方面に存在し、現代生活の中に不可欠の部分として残ると思う。そのとき、おそらく完全に純粋な現代社会となることが不可能に近い。したがって、われわれは伝統を負担とは見ていないが、一種の利用可能な資源として見ている。利用に善を尽くしているかどうかに関わると思う。それゆえに、前に書いた文章では、「伝統を高揚し、現代に奉仕する」⁹⁾ といってる。多くの人は、現代化理論を言うとき、60年代のような伝統と現代を完全に対立させる旧現代化理論で説明するが、新しい現代化理論の存在についてあまりにも知らない。われわれの社会変容論は伝統と現代が対立の面とあれば統一の面もあると主張している新しい現代化理論である。

この観点から中国の社会変容を見るとき、それが非常に複雑な過程であることが分かる。社会全体を例に取れば、伝統要素が主導的地位を占める社会から、現代要素が主導的地位を占める社会に変わる過程である。しかし、この過程では、伝統から現代への転換であれば、伝統的自然経済から現代的市場経済への転換であり、人治から法治への転換であり、同性質性が強い社会から異質性がますます増大する社会への転換などである。または、現代から伝統への転換もある。たとえば、現在、民主主義が不識字率の高い農村での乖離、一部の地方では冠婚葬祭の現代から伝統への逆戻り（結納の礼品、売買婚姻、死んだ人のためだけでなく、生きていた人のためにも墓を作る）もある。

伝統から伝統への転換もある。たとえば、男尊女卑の復活、形を変えても中身を変えない家父長制など。現代から現代への転換もある。たとえば、高度集中の計画経済のような効率の低い現代経済から高効率の現代市場経済への転換など。これらの複雑かつ交叉的な過程は、中国大陸で皆経験しているが、現在の中国社会の快速変容の著しい特徴の一つとなっている。

1978年以来、中国の社会変容は新しい段階に入りつつある。いままでと異なった特徴が現れた。中国社会の「社会変容の加速期」の特徴を具体的に説明するために、私は「社会変容度」¹⁰⁾ という概念を提示した。これを中国社会現代化の程度をはかる重要な範疇としている。社会変容度は、具体的に速度、広さ、深さ、難度と指向度という五つのサブ概念を設けた。私は、現在の中国社会の特徴と問題がこの五つの面に集中していると思う。したがって、これを現在中国社会変容の特徴を把握する一種の視角であると称している。「社会変容の加速期」とは、1978年から現在にいたる時期を指している。その理由は、中国社会がこれまで経験した変容と相対的な位置にある。歴史的に見てみると、中国社会変容は1840年の阿片戦争から始まり、現在に至っている。これまでの変容は、三つの段階を経てきた。1840年から1949年までは第一段階である。1949年から1978年までは第二段階である。1978年から現在までは第三段階である。

各時期における中国社会変容度

段階 変容度	第一段階 1840-1949	第二段階 1949-1978	第三段階 1978-現在
速度	低速	中速	快速
広さ	一方的である	相対的に一方的である	全面的
深さ	表層的である	比較的に深いさある	深さある
難度	軍事上の難しさ	建設上の難しさ	利益調整の難しさプラス建設上の難しさ
指向度	資本主義現代化の道とモデルに求めている	ソ連式社会主義現代化の道とモデルを受け入れた	中国特色ある社会主義現代化の道とモデルを模索している

9) 原注⑦：鄭杭生著「当前中国比較文明研究の任務」『社会科学輯刊』1994年第2期

10) 原注⑧：鄭杭生著「中国社会大轉型」『中国軟科学』1994年第1期